

頼りになる技術

- (1) 2012年、カナダ銀行はすべての貨幣単位に対してポリマー紙幣の段階的な導入を開始したが、導入は100ドル札から始めて下位の単位へと順次行っていく。
- (2) この中央銀行がプラスチック技術への移行時に念頭に置いていたのは費用、安全性、そして環境である。
- (3) ポリマー紙幣はオーストラリア準備銀行が科学者と共同で開発し、1988年に導入された。
- (4) その20年前、オーストラリア10ドル紙幣の偽札が出回り、当局はカラーコピー機の登場に伴い偽造が増えることを懸念していた。
- (5) ポリマー紙幣のおかげで、容易には複製できない透明な窓の部分やホログラムのような、安全上の新しい特徴が実現した。
- (7) ポリマー紙幣はまた、(従来の)同額紙幣の約2~3倍も長持ちをするので、より環境にやさしく、耐用年限が来たら他の用途にリサイクルすることも可能だ。
- (8) しかし、この技術には若干の小さな欠点もある。
- (9) ポリマー紙幣は折り畳みにくい上に滑りやすく、手で数えるのが極めて難しいのである。